



とき
この「瞬間」を守る

This "Moment" is defended.



お問い合わせ先

横浜市消防局
総務部 人事課 人事係
〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9
TEL : 045-334-6554~6557

横浜消防

採用試験のお問い合わせ先

横浜市人事委員会事務局 任用課
〒231-0021 横浜市中区日本大通15
横浜朝日会館7階
TEL : 045-671-3347~3348

始動。

「横浜」を守る誇り

368万人の市民が暮らし、国内外から多くの人を訪れる都市「横浜」は、1859年の開港以来、日本近代化の窓口として栄え、豊かな緑に囲まれた、歴史の香り漂う先進的な国際都市として発展を続けてきました。私たち横浜市消防局は、先人たちから受け継いだこの歴史ある横浜を「安全・安心を実感できる都市」とするため日夜活動しています。



横浜市データ

平成22年9月1日現在

面積 434.98km² 人口 3,681,279人

消防機動力

平成23年2月1日現在

消防職員定数 3,362人

庁舎・施設 消防局 消防署 ……18署 横浜ヘリポート
消防訓練センター 消防出張所 ……77所 横浜市民防災センター

消防車両 約600台 消防ポンプ車、救急車、救助工作車、消防艇、消防ヘリコプターなど

災害発生件数（速報）

平成22年1月1日～12月31日まで

火災件数 961件	救急出場件数 158,631件
建物火災 ……609件	出場率 ……3分19秒に1回
林野火災 ……1件	搬送人員 ……140,822件
車両火災 ……84件	1日当りの救急出場回数 ……435件
その他火災 ……264件	

横浜市消防局

Yokohama City Fire Bureau



市内に 18 の消防署と 77 の消防出張所を配置し、消防局長以下約 3,400 人の職員、約 600 台の消防車両をもって横浜の災害に万全の備えをしています。また、消防局に危機管理部、総務部、予防部、警防部の各部や消防訓練センター、横浜ヘリポートを設け、それぞれ連携を取りながら、災害から市民の安全を守っています。



特別高度救助部隊

火災、交通事故、水難事故、地震災害、テロ災害などのあらゆる災害から尊い人命を救助するために必要な専門的かつ高度な知識、技術及び強靱な体力を身につけているのが特別高度救助部隊（通称 SR）です。高度な資機材や特殊車両を活用して市内全域の災害に出場します。また、各署特別救助隊への技術指導や災害現場における安全管理、指揮支援活動を行います。



消防隊

高層化や深層化さらには用途の多様化が進む大都市。24 時間動き続ける都市部の生活様式から、火災の形態もより複雑・多様化し、消火活動の困難性は日を増すことに高まっていく傾向にあります。その中で火災から市民を守るために、あらゆる火災を想定した訓練を積み重ね、いついかなる時も迅速・的確な消防活動で対処します。



救急隊

尊い命を救うため、1分1秒を争う救急活動。救急車の出場件数が増加する中、傷病者の救命効果の向上をめざして、救急救命用資器材を積載した高規格救急車と「横浜型救急システム」により導入した救命活動車に救急救命士などが乗車し、迅速な出場と救命処置により、救える命を救います。



特殊災害対応隊

高圧ガス、毒物・劇物等化学物質、放射性物質による災害など、一般消防隊の装備では対応困難な特殊災害に対し、化学防護服に身を包んだ特殊災害対応隊が専門的な知識、資機材を活用して活動します。近年多発するテロ災害や不審物発見に備え、日々検証・訓練を行っています。

人口 368 万人を抱える大都市横浜。

そこを 24 時間体制で毎日守り続けているのが横浜市消防局です。約 3,400 人の消防職員一人ひとりが、プロフェッショナルとしていつ何が起きようと直ぐに行動できる様、日夜活動しています。

自らの手で、「横浜」を守り続ける。

横浜市消防局

横浜市消防局	総務部	企画課 / 総務課 / 人事課 / 施設課 総合調整、広報、庶務、経理、職員の任免、労務、消防施設の配置など
	予防部	予防課 / 地域安全支援課 / 指導課 / 査察課 / 横浜市民防災センター 火災予防企画、防犯対策、危険物施設許認可、火災予防査察、防災講習会など
	警防部	警防課 / 司令課 / 計画課 / 救急課 警防の統括、救助、119 番通報の受信、災害調査・分析、救急技術の指導など
	消防訓練センター	管理・研究課 / 教育課 施設の管理、消防科学化的研究、鑑識・鑑定、消防職員・団員の教育訓練など
	横浜ヘリポート	航空管制科 / 整備科 航空機による消防活動 / 航空機の管制 / 航空機の整備など
	消防署 (横浜市内 18 か所)	消防署の庶務・経理、消防団、火災予防、予防査察、危険物に係る許認可・建築物の許認可、消防隊・救急隊の運用、災害調査など
危機管理室	危機管理部	



司令課

消防司令センターでは横浜市内で発生する火災・事故・救急など全ての119番通報を受信し、消防隊・救急隊への出場指令や災害・救助活動の部隊管制を行います。ここでは、指令コンピューターを中心として、消防署や各部隊を有線・無線通信で結び、スピーディな情報伝達を実現し、一刻を争う災害に迅速、的確に対処しています。



査察課

建築物などに対する予防査察や消防用設備などの検査、危険物施設や危険物輸送車両への法令に基づく立入検査を行い、火災や災害の未然防止を図ります。社会的影響の大きい火災が発生した場合などには、緊急査察を行い、同様の火災発生を防止するとともに、市民や横浜を訪れる人が「安全・安心を実感できる都市」の構築を推進します。



消防訓練センター

採用試験に合格した翌年度の4月1日から6ヶ月間、消防訓練センターに入校します。ここでは、消防業務執行上で必要な基礎知識や、技術の取得を行うほか、精神と体力の鍛錬など、消防職員としての基本を身につけます。平日の月曜から金曜まではセンターに宿泊し、金曜の業務が終了した後から土・日曜は自宅などで過ごします。

先輩職員からのメッセージ



特別高度救助部隊 隊員
秋田 真澄

横浜の救助の頂点を目指して

私は現在、特別高度救助部隊（以下 SR）の隊員として横浜市消防局に勤務しています。私が消防士になると思ったのは、高校生の頃に兄が消防士になったことで、消防の仕事に興味を持ったのがきっかけです。そこらにいると調べていくうちに、救助隊という仕事を知り、救助隊員を目指しました。

横浜市消防局の採用試験に合格し、はじめに半年間、消防学校に入校しました。果たして自分の体力でやっていけるのかという不安の中、同期の仲間たちとともに寝食を共にし、厳しい訓練を乗り越え、卒業から 10 年経った今でも家族ぐるみの付き合いが続いているほどの強い絆を得ることができました。

その後、目標だった救助隊員になることができ、救助隊として活動していく中で、救助隊員の中でも実績と経験を積んだ方たちが集まり、新しい救助技術の研究やマニュアルの作成、特殊な資機材の検証などを行う SR に強く憧れを抱くようになりました。

この横浜の救助の頂点である SR の隊員にはすべての面において高いレベルが求められます。心・技・体に加えて豊富な知識も必要です。SR の隊員になった今でも、常に自分に足りないものは何かを客観的に判断し、日々自己研鑽に努めています。

横浜市を守る使命

SR は横浜市全域が出場範囲となっています。そのため、出場件数も多く、様々な災害の経験を積むことができます。また、市内の各消防署の隊員と連携して活動することで、「私達が横浜市を守っているんだ」という使命感を持つことができ、そこにやりがいを感じています。

日々行っている訓練は大変ですが、訓練で得たことが災害現場で生かされた時には、大きな達成感を感じることができます。

仕事の厳しさはというと、24 時間の当直勤務中、休憩時間はありますが、災害が発生すれば直ぐに現場に向かわなければならないところでしょうか。私は潜水士の資格を持っているので、水難事故があれば真冬でも真夜中でも、季節や時間に関係なく海や川での潜水活動を行います。

そのため、現場での怪我や事故に繋がらないために、非番の時でも常に体調管理に気をつけるとともに、できるだけリラックスして精神的にリフレッシュするように心がけています。



いつまでも子どもたちの憧れに

私達 SR は、テレビドラマの題材になったこともあり、特に子どもたちに人気があります。車両で街中を走行していると、子どもたちが手を振ってくれたり、イベントなどで子どもたちと直接話す機会があるときには「大きくなったら SR になりたいです。どうしたらなれますか?」とうれしい質問を頂くこともあります。

そんな子どもたちと接する度に感動して胸がいっぱいになるとともに、今まで以上に頑張らなくてはと、一層気が引き締まります。私は、市民の皆様の安全と安心、笑顔を守るために働く消防職員という仕事を誇りに思っています。「何か社会に貢献できる仕事になりたい」と考えている方にとっても、大変やりがいのある職業です。

消防署の一日

8:30	引継ぎ点検	8:30 引継ぎ点検	前日より勤務していた職員と勤務の交代を行います。朝の引継ぎ点検では、人員その他必要事項を報告するほか、服装点検、車両や積載器具、個人用装備などの点検を実施します。
9:30	ミーティング 事務処理など	9:30 ミーティング、事務処理など	ミーティングでは、前日の災害発生状況や各部隊の一日の予定について確認するほか、市内の道路工事状況や消火栓の使用の有無など、当直に必要な確認などを行います。午前中は主に、事務処理・訓練を行います。予防査察の実施準備や市民の方々から申請のあったものについて事務処理を行ったり、火災の原因調査や警防計画の作成など、それぞれが担当している業務について、事務処理を行います。
12:00	休憩		
13:00	訓練・水利調査など	13:00 訓練・水利調査など	訓練は訓練場や庁舎内で火災や救助、救急や水害などを想定した訓練などを行い、消防隊だけではなく、はしご隊や救急隊、救助隊などと連携した訓練も行い、実災害に備えます。水利調査は、管内の消火栓について緊急時に支障の無いよう、維持管理を行ったり、道路の幅員や障害物の有無の確認などを行い、災害出場時に最適な経路選択が行えるよう、調査します。
18:00	休憩		
19:30	ミーティング 体力錬成・訓練など	19:30 体力錬成・訓練など	消火や人命救助などの災害活動に必要な体力を向上させるため、体力錬成を行います。体力錬成は、災害活動に必要な筋力になるばかりではなく、けがの防止にも役立ちます。
22:00	交替で 2 時間勤務・仮眠		
6:00	起床 車両清掃・事務処理など		
8:30	業務終了		



給与について

平成23年2月1日現在

試験区分	給料	地域手当	合計
大学卒業程度	186,900 円	22,428 円	209,328 円
高校卒業程度	164,900 円	19,788 円	184,688 円

◎通勤状況・住まいの状況・家族の状況・勤務の状況などに応じて、通勤手当、住居手当、扶養手当、超過勤務手当などが支給されます。
◎期末・勤勉手当については、給料+扶養手当+地域手当の 1 か月分をベースに、年間約 4 か月分（平成 22 年度実績）が支給されます。

平成 23 年度採用試験について

試験区分	第一次試験	受験案内配布	インターネット・郵送申込受付期間
大学卒業程度	平成23年6月26日(日)	平成23年4月下旬予定	平成23年4月28日(木) ～5月11日(水)
高校卒業程度	平成23年9月25日(日)	平成23年7月上旬予定	平成23年8月1日(月) ～8月10日(水)

※試験区分、受験資格、インターネット申込受付開始・終了時間などの詳細は、受験案内をご覧ください。
※申込受付で郵送の場合は、当日消印有効です。
※受験案内は、横浜市の各消防署・行政サービスコーナーなどで配布するほか、郵送での請求も可能です。